



当館キャラクター
「ごろすけ」

巻頭言 子どもと本と司書さんと

福島県教育庁社会教育課長 鈴木 基之

私は小学校の教員です。平成28年から2年間、喜多方市立駒形小学校の校長を務めていました。学校ですので図書室がありました。司書さんは配置されていませんでしたが、担当の教員が図書室を整理し、貸出関係を取り扱っていました。子どもたちで組織される図書委員会も図書活用促進のために活動していました。図書室から本を借りる子どもたちも多く、私自身、普通に図書室が利用、活用されているものと思っていました。

平成29年に学校司書さんが配置されました。3校掛け持ちですので1週間に1回の勤務ではありましたが、図書室はどんどん変わっていきました。

図書室の環境、例えば新刊コーナーですとか、月ごとに子どもたちの興味関心を喚起するような形での特集コーナー、本の紹介や感想を分かりやすく、短くまとめた多くのポップ、そして昼休みの読み聞かせ。大変素晴らしい司書さんに恵まれ、子どもたちの図書室利用率、図書貸出数が大きく増加しました。小学校2年生では、生活科の学習で地域の公共の施設の見学を行い、その施設の役割や利用の仕方等を学習します。2年生が喜多方市立図書館の見学に行くときに、私もついて行ってみました。驚きました。本を手にする子どもたちの目の輝き、笑顔というわけではないのですが、目が違うといいますが、本の題名や表紙の絵を見て心が躍り、文字を追って心が動かされているのが分かります。本の持つ力はすごいですね。学校が休みの日等、だめだって言われても何時間もゲームをしている子どもたちも、図書館で目を輝かせて本を手にする、真剣な眼差しで読み聞かせに聞き入る、自分でポップを書いてみる、そういった子どもたちの変化を、学校司書さんのご尽力のおかげで、私は身をもって体感することができました。点数に出るのか出ないのかは分かりませんが、正に、本は、読書は、生きる力に直結する思考力、判断力、表現力を身につけるために不可欠なものであります。そして、やはり学校図書館には、専門家である学校司書の存在は大変大きいものなのだろうと思います。

さて、本県においては、第三次子ども読書活動推進計画の進捗を把握、評価検証し、又、国の第四次基本計画を受け、第四次福島県子ども読書活動推進計画の策定に取りかかっています。子どもの発達段階に応じた効果的な読書活動推進の取組が、学校等や家庭、地域において確実になされるよう、実効性のある計画を策定してまいります。

私ども県教育委員会はこれからも、読書の環境を整え、子どもの読書活動を推進してまいります。そして、子どもたちが読書活動によって言葉の力を身につけると共に、自らの表現力や想像力、感性等を磨き上げ、豊かな人間性を育むことができるよう取り組んでまいります。

今後とも、御解と御協力のほど、よろしくお願いいたします。

令和元年 県立図書館の取組み

Pick Up① デジタル化資料について

■地域(郷土)資料のデジタル化について

当館では貴重な地域(郷土)資料についてその保護と利用の便をはかるため、デジタル化を進めています。デジタル化した資料は CD-ROM に保存し、貸出をしています(一部を除く)。そのうち絵図、写真など一部の資料をホームページのデジタルライブラリーで公開しています。

平成27年度から今年度にかけては浜通りの郷土誌をデジタル化しました。郷土誌とは明治43年から県内の各小学校に作成が義務付けられたもので、学区内の地誌をまとめたものです。1970年頃から県内の市町村史が作成されましたが、その際に参考にされたものも多くあります。その土地の歴史、地理についての基礎となる貴重な資料です。

デジタル化した郷土誌一覧		
金房村	日立木村	大甕村
高平村	新地村	鹿島町
小高町	八澤村	磯部村
上真野村	飯曾石橋村	八幡村
駒嶺村	山上村	太田村
新館大須村	玉野村	大野村

※山上と玉野は2村で1冊

■リンク集「ふくしまについて調べるためのデジタル化資料(デジタルふくしま)」の公開について

国立国会図書館では2011年に「国立国会図書館デジタルコレクション」というサイトを公開し、著作権など権利状況に問題がないことが確認できた図書等をインターネット上で閲覧できるようにしています。この中には福島県に関係するものも多数ふくまれ、福島県について知りたい、調べたい時にいつでもどこでも利用できます。

国立国会図書館デジタルコレクションで見ることができ資料のうち、特に福島県についての調べものに役立つと思われるものをまとめた「ふくしまについて調べるためのデジタル化資料」を当館ホームページリンク集内に2019年7月に公開しました。民謡など音源もご紹介しています。どうぞご利用ください。

アドレス:https://www.library.fks.ed.jp/ippan/link-syu/link_fkd.html

■国立国会図書館歴史的音源の紹介とミニコンサートの実施報告

歴史的音源は、1900年代前半頃のレコード盤の音源喪失を防ぐためデジタル化された、2011年5月から公開されている国立国会図書館のサービスです。ジャンルの幅が広いのも特徴で、音楽のほかに落語や漫才、演説、効果音などの音源資料も提供されています。一般公開されているものもありますが、図書館でしか聴くことができないものが大半となっています。2020年1月現在、福島県で歴史的音源を利用することができるのは県立図書館のみです。

2019年9月16日の敬老の日に、この歴史的音源を利用したミニコンサートを開催しました。「牧場の朝」や「会津磐梯山」、古関裕而作曲の「オリンピックの歌」など福島県にゆかりのある楽曲のほか、クラシックやジャズの楽曲など、約30分間歴史的音源の音楽をお聞きいただきました。普段は静かな図書館に音楽が流れたため、「うるさかった」と感じられる方もいらっしゃった反面、「私がいさかった時に聞いた音(楽器)歌声でとてもなつかしく思った」や「また機会があっても良いと思う」などの声も寄せられ、歴史的音源というデータベースを知っていただく良い機会を持つことができました。



[歴史的音源で楽しむミニコンサートの様子]

■朝日新聞記事データベース聞蔵(きくぞう)Ⅱビジュアル使用開始

2019年4月より、朝日新聞社のデータベース「聞蔵Ⅱ」がご利用いただけるようになりました。朝日新聞縮刷版については、1945年～89年までの紙面を検索・印刷・閲覧可能です。地域面についても全国42都府県の記事が収録され、福島面は1932年8月11日～1999年12月31日までの紙面が収録されています。(部分的に欠号もあります。)

朝日新聞データベースは、1985年～今日までの朝日新聞・週刊朝日・AERAの記事検索ができます。契約制のデータベースですので、当館の専用端末でご利用いただけます。調査相談カウンターにお声がけください。

■データベースを用いたレファレンス事例

福島県立図書館で2019年度に実際にあったレファレンスのうち、データベースを用いて回答したものをいくつかご紹介します(レファレンス内容は一部簡略化しています)。データベースを用いることで、図書館で所蔵していない資料や、専門的な資料を提供できる場合があります。

(質問)分銅で動く時計の仕組みを知りたいです。

(回答)時計の仕組み関連の書籍を提供しました。

そのほか、国立国会図書館デジタルコレクションで以下の資料を提供しました。

『生きている機械』藤岡亀三郎 著 誠文堂新光社 昭和25

27 分銅時計 / p.61 (0037.jp2)～63

(質問)5月3日の朝日新聞「天声人語」で取り上げられていた「九条俳句」をめぐる裁判について、この「最高裁の判決文」を読みたいです。

(回答)最高裁判決(平成30年12月20日)についてDI-Law(第一法規法情報総合データベース)で検索したところ「本文準備中」とあり、事案概要のみ掲載されていました(令和元年5月5日)。後日確認したところ、判決文の掲載を確認できました。

東京高裁の判決文は裁判所HPから見る事ができるため、そちらも提示しました。

Pick Up② 只見線応援文庫の設置

昨年10月から実施している只見線実証事業の一環として、会津川口駅と会津柳津駅の駅舎内に本棚を設置し、只見線を利用する人の待ち時間や、地域住民が駅で過ごす際にご利用いただく「只見線駅文庫」を新たに開始しました。

当館では地元小学生のメッセージカード付きの本の提供、本棚設置の支援を行いました。順調に利用されている様子で、本の追加提供も行いました。

館内でも、只見線沿線自治体のパンフレットコーナーの拡充やロビー展示「一目瞭然!会津美里町の魅力」を行いました。



[只見線応援文庫]

令和元年 県内図書館の動き



■新しい図書館■

2019年、新たに2つの図書館が誕生しました。石川町立図書館と会津美里町図書館です。

【石川町立図書館】4月21日にオープンしました。施設は旧石川小学校を改修したもので、図書館のほか、公民館や屋内遊び場を備えた文教福祉複合施設となっています。愛称は「モトガッコ」と言います。元小学校という施設の形状を活かし、「集い」「遊び」「学ぶ」をコンセプトとした施設内部は、訪れた子どもたちや住民が自然と利用できる環境(動線)を創り出しており、複合施設としての相乗効果を生んでいます。



[文教福祉複合施設 モトガッコ]

【会津美里町図書館】5月7日、役場本庁舎を含む複合文化施設(じげんプラザ)の1階にオープンしました。

「出会いのある図書館」を主題に、①人と本の出会い②人と歴史・文化の出会い③人と人の出会い④子どもとワクワク・好奇心の出会い⑤新しい自分との出会いの5つの「出会い」を掲げています。気軽に寄ることのできる図書館を目指し、役場庁舎の来館者が多い月曜日を開館日(火曜日休館)とするなど、複合施設としての利用効果を考慮したサービスを展開しています。また、図書館情報システムにより、図書館と生涯学習センター(本郷・新鶴)、学校図書館とがネットワークによりつながっており、図書館と生涯学習センター間は資料の貸借が可能となっています。

このほか、須賀川市図書館が1月、市民交流センター(tette)の中に移転新築し再オープンをしています。フロアは機能ごとに「こどもライブラリー」「メインラ



[会津美里町図書館]

イブラリー」「しらべるライブラリー」に分けられているほか、図書館エリア以外にも、施設内の各スペースに図書が置かれ、図書館の利用時間以外にも利用することができます。図書館名は須賀川市中央図書館に改称しました。

■広域利用とネットワーク■

郡山市では、10月1日から、市が進める「こおりやま広域連携中枢都市圏」を構成する15市町村の住民の利用を可能としました。このような広域利用は他にも見られ、いわき市では隣接する県内8市町村と北茨城4市を、新地町では同様に3市町(宮城県2町)を、会津若松市では会津・南会津管内を利用対象としています。白河市と須賀川市では制限を設けていません。

また、郡山市中央図書館湖南分館が10月1日にオンライン化され、郡山市内14の図書館がネットワークでつながりました。このことで、県内の公立図書館の数は65館となりました。

■避難指示区域内の図書館■

原子力発電所事故災害により、全町避難を余儀なくされた地域には4つの図書館がありました。平成30年4月、富岡町図書館が初めて再開を果たしていますが、隣接の浪江町でも再開に向けた準備を始めています。図書館のあった複合施設は取り壊しが決定し、図書館は、隣接する保育園を改修し整備される「復興まちづくり支援施設」に入ることになっています。令和元年度は詳細設計を行い、令和3年度の再開を目指しています。

県立図書館を支える人々

県立図書館は、多くの方々からご支援を賜り運営しております。
その中でも特にお力添えをいただいている御三方について、ご紹介いたします。



「図書館ボランティア」遠藤みどりさん

2008年6月から毎日休みとなったので月に何度か図書館に本を借りに通っていた時にボランティア募集を見て申し込みました。

最初は返却された本を棚に戻し順に並べて整理する事。地震の時に倒れた本棚に唖然！いつまでかかるかと思われたけど続けているといつもの図書館に戻りました。

次に各図書館に貸し出す本、お借りした本を返すため包んで箱に入れ送り状を張る事。再利用の箱、緩衝材を使うって地球に優しいみたいで好きです。当初体重減を狙って2時間のボランティアのはずが目盛りは下がる事なく少しずつ増加中です。



「梶井宮御流 福島支部」石井素紀さん

梶井宮御流は、宮門跡である京都大原三千院を源とし室町時代に創流。「古典花」を中心に継承されています。同時に時と場に相応しい「現代花」のあり方にも研鑽しています。昭和63年に会員の研修の場として、静寂な環境である図書館に花を生けさせていただいて今年で33年目になります。先輩や会員の意思と努力により今日に至っています。

当番制で生けるのですが、水が枯れていないか、萎れていないか、型は崩れていないか等、揚げ花をするまでの気苦勞もあります。しかし、何らかの関心を寄せていただいたり声をかけていただいたりした時など、何よりの励みとなっています。

「原國雄とその仲間たち」元代表 原國雄さん

私達はボランティアで朗読をするプロのアナウンサーグループです。名前は「原國雄とその仲間たち」（2008～2019）活動の場は、県立図書館を中心に各地の図書館や、公民館、学校など。

朗読は、そのもととなる底本が必要です。図書館とは切っても切れない間柄です。アナウンサーの経験を活かし“上質で感動的な物語の世界を堪能していただきたい”そんな想いで朗読活動を始めました。メンバーは9人、平均200人近くの入場者がありました。“売り”は何と言っても6人で朗読する藤沢周平作品の朗読劇、そして朗読のヒントが詰まった「ワンポイント講座」です。一番の喜びは「目で読む楽しさとはまた違った作品世界が広がるのね」その一言に勇気づけられ続けてきました。

11年のご支援に感謝いたします。



Twitter アカウントを開設しています



@fukushim_p_lib

福島県立図書館では、平成30年度から Twitter の公式アカウントを開設し、試験運用を行っていましたが、平成31年度から本格稼働になりました。アイコンは県立図書館の愛されキャラクター、ふくろうの「ごろすけ」です。

イベント情報や、図書館の展示情報、図書館の日常など様々なお知らせを随時更新しています。Twitter でしか見えない図書館の情報を発信します。皆さんもぜひフォローをして、県立図書館の最新情報をゲットしてください。

県民のくらし応援文庫へのご寄贈のお願い

「県民のくらし応援文庫」は、県民の皆様のからしや地域づくりを応援するため、「育児活動支援」「健康長寿支援」「まちづくり支援」「防災活動支援」の4テーマで図書をご寄贈いただく制度です。ご寄贈図書への記名などの制度もありますので、ぜひ多くの皆様のご賛同とご協力をお願いします。

図書の御寄贈

以下の団体をはじめ、多くの方々から図書の御寄贈をいただきありがとうございました。寄贈いただいた資料は、当館の活動を通じて広く県民の皆様の利用に供してまいります。

【県民のくらし応援文庫の御寄贈】(敬称略)

- 福島発電株式会社 [29冊 50,000 円相当](31.3.5)
- 福島テレビ株式会社 [54 冊 100,000 円相当](1.9.12)
- 一般財団法人ふくしま未来研究会 [522 冊 1,000,000 円相当](1.10.8)
- 福島ヤクルト販売株式会社 [30 冊 50,000 円相当](1.12.19)

【通常御寄贈】(敬称略)

- 国際ゾンタ福島ゾンタクラブ [61 冊 100,000 円相当](31.2.28)
- 日産自動車株式会社 [192 冊](31.3.4)
- 一般財団法人福島県教職員互助会 [1,151 冊 2,160,000 円相当] (1.11.15)
- 福島信夫ライオンズクラブ [63 冊 100,000 円相当](1.10.23)
- 八百板洋子 [123 冊](1.12.6)
- 国際ソロプチミスト福島 [58 冊 100,000 円相当](2.1.30)

『福島県立図書館報 あづま』第69巻(通巻273号)

令和2年2月18日

発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島県福島市森合字西養山1番地 電話:024-535-3218(代表)

URL:<https://www.library.fks.ed.jp/>